

強化指定審判員担当インストラクタースキルアップ研修会②研修会報告書

1. 日 時 令和5年9月3日（日） 9時～16時
2. 場 所 旭川市忠和公園多目的広場
3. 参 加 者 講 師：村山 尚哉（HKFA 審判委員会指導者部、1級審判インストラクター）
受講者：【集合参加】氏家克仁、砂川邦裕

4. 研 修 内 容 **主な研修内容は以下のとおり。**

講義① ・試合分析実践

■北海道サッカーリーグ第12節 旭蹴会 vs 日本通運 FC

主審：須摩和樹 副審：大井航、堀井大哉 第4の審判員：矢吹健一

講義② ・振り返り実践

講義③ ・振り返りの共有、指導のポイントおよび観点について、指導方法について

【講義①】

審判員のパフォーマンスの向上につながるように、試合分析を進めていくことを確認し、重大な事象の対象となる事象と考え方、および明らかな判断ミスの解釈なのか、またアセスメントレポートにおける評価項目の観点を情報共有しながら実践を行いました。

レフェリング分析をしていく中で、主審のストロングポイント及びウィークポイントを抽出し、振り返りに向けてこの試合から出てきた改善点を明らかにしていくことで、次の目標を審判員がもてるようにアセスメントメモをまとめ、次の振り返り実践に準備しました。

【講義②】

振り返りでは、継続や応用につなげたいよい部分と改善すべき悪い部分が明確になることが重要なポイントであることを認識しました。「ショート・シンプル・クリアー」を意識して、担当試合を省察することで、レフェリングの理解が深くなり、次のステップに向けての改善すべきことを一緒に考えていくことで、審判員の成長がプラスとなるように行いました。

【講義③】

いろんなタイプの審判員がいますが、オープンな雰囲気をつくる・共感とフィードバック・目標の再確認・審判員の発言促進・試合分析に基づいた指摘・タイムマネジメント・アクションプランなどを意識して、指導ができたかどうかなど、振り返りの共有を効果的に行えるためにできることを学びました。

審判員が次のステップに向かうために、お互いが共有のゴールを明確にし、それに進むための具体的な方策を一緒に考えていくことが大切です。

